

令和元年度 南種子町郷土館 年報



南 種 子 町 郷 土 館

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2420-2

TEL (0997) 26-1111

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設の防火設備及び危難経路	3
2. 事 業	4
①展 示	4
②展示の概略	6
③企画展	7
④資料収集活動	8
⑤新収蔵資料	8
3. 教育普及活動	9
■体験学習	9
①郷土館及び埋蔵文化財センター体験学習（通年）	9
②南種子町埋文化財センター体験学習室利用状況	10
③南種子町埋文化財センター体験学習内容	10
4. 入館者数	13
5. 郷土館の組織	14

南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：大曲の宇宙ヶ丘公園に、「南種子町立南島民俗博物館」として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：旧国民保養センターを改装して「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して開館
- 平成21年 4月30日：館内の広田遺跡展示室を改修工事
- 平成24年 4月 1日：社会教育課とともに、郷土館も旧南種子高等学校跡（南種子町中央公民館に改名）に移転して開館
- 平成28年 4月 1日：社会教育課が本庁舎へ移転、郷土館の事務所と上中児童クラブが併設

館日誌

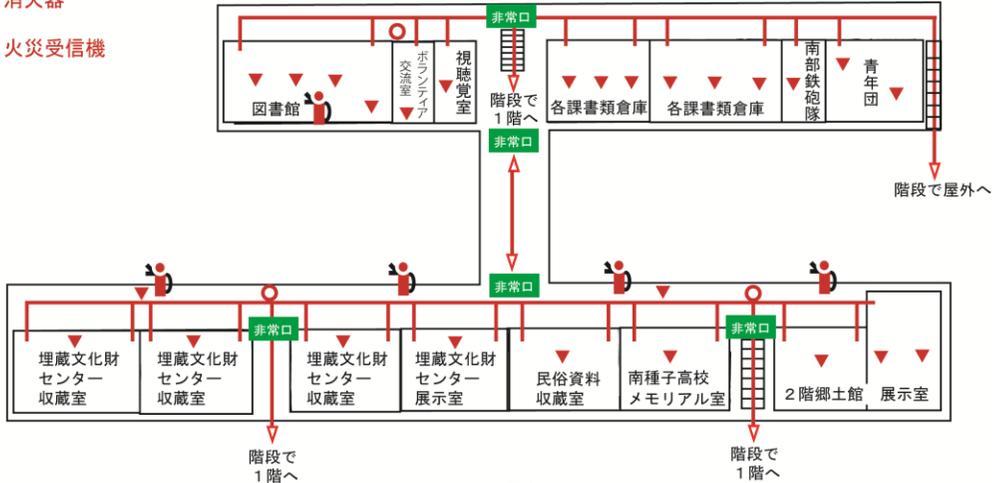
- 平成31年 4. 2 佐々木茂美氏より寄贈資料の受入（寄託から寄贈資料へ変更）
4. 4 県指定文化財「南種子町のインギー鶏」パネル展開催
4. 10 郷土館管理委員会開催
4. 25 第1回インギー鶏育種会総会開催
- 令和元年 5. 3 郷土館との協賛事業 ゴールデンウィーク イベント「昔の子供の
～5 遊び体験」を広田遺跡ミュージアムで開催（5日は指導者として、
広田遺跡ミュージアムへ出向）
5. 24 町立島間小学校（3年生）見学及び割りばし鉄砲作り体験学習
6. 1 企画展「上皇陛下御作詞・上皇后陛下御作曲の歌声の響（依頼を受けて山本直純氏が楽譜を作成）楽譜公開展」開催
6. 4 町立花峰小学校来館
7. 26 町内小中学校の社会部会来館
7. 27 中央公民館の防災設備点検
8. 1 「うみがめ」パネル展開催
8. 1 企画展「令和元年度 新収蔵資料展」開催
10. 8 人権啓発研修会出席
10. 26 峰山祝文氏より寄贈資料の受入
11. 1 企画展「日高稔典氏寄贈資料展」開催
11. 1 「宝満池の鴨突き網猟」パネル展示
11. 28 郷土館関係備品監査
12. 4 中央公民館の防災施設点検
12. 24 愛知県飛島村友好都市交流団来館
- 令和2年 2. 12 令和2年版新生活ガイド「めっかりもうさん」作成
2. 13 第2回インギー鶏育種会総会開催
2. 19 インギー鶏認定調査の実施
2. 23 インギー鶏品評会開催
3. 3 新型コロナウイルス感染防止のため、3月22日まで閉館。
（閉館中は館の清掃及び資料整理を行った。）

1. 施設の防火設備及び避難経路

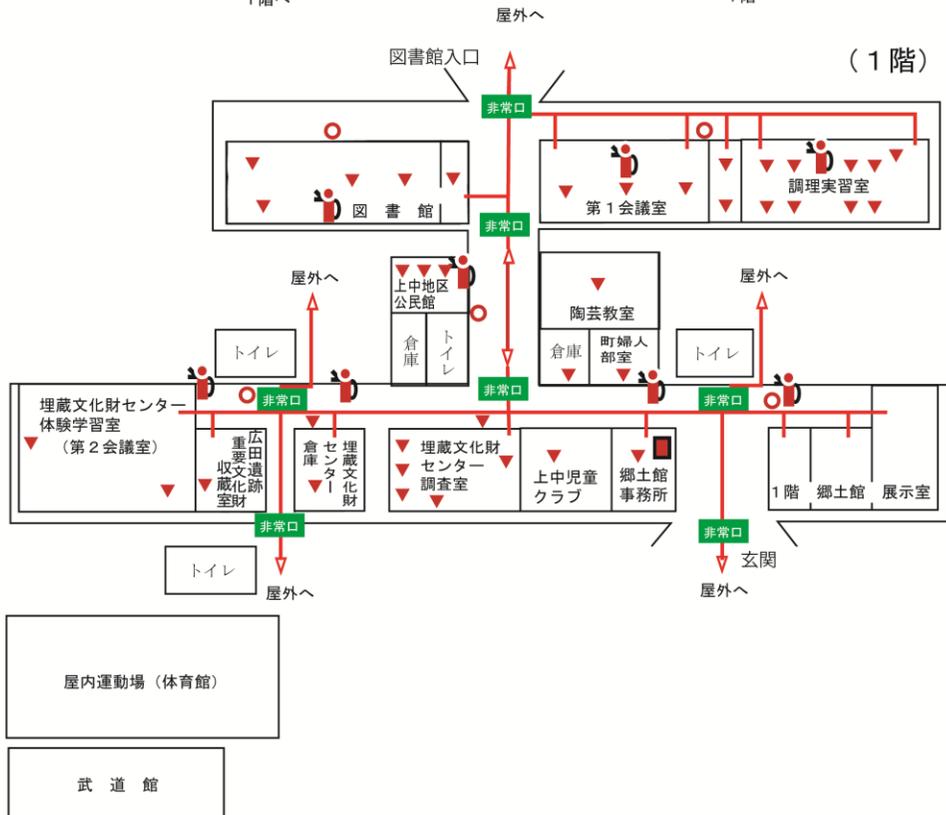
■南種子町 郷土館 中央公民館 の防火設備及び避難経路

- 火災報知機
- ▼ 煙・熱等の感知器
- 🚒 消火器
- 火災受信機

(2階)



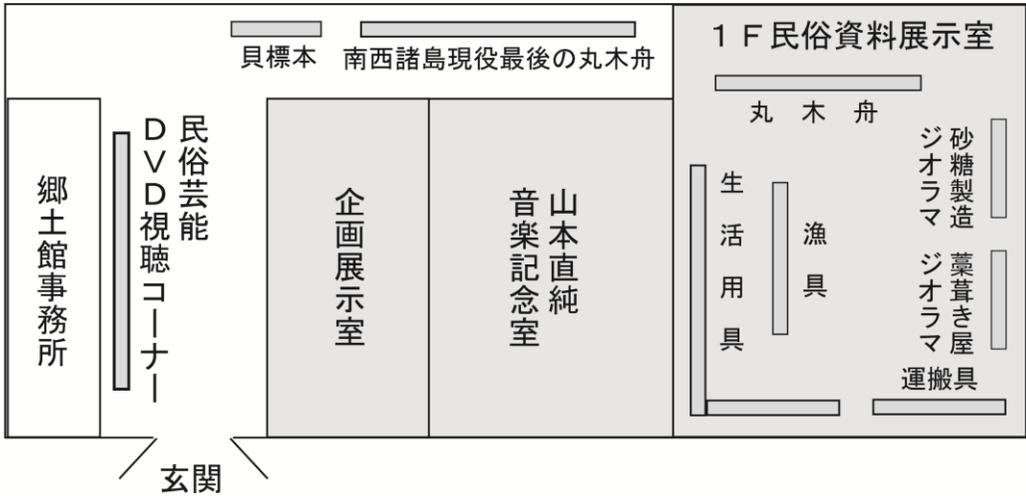
(1階)



2. 事業

① 展示

1階 展示室



1階民俗展示室（生活用具）



山本直純音楽記念室



1 F 廊下 南西諸島
現役最後の丸木舟

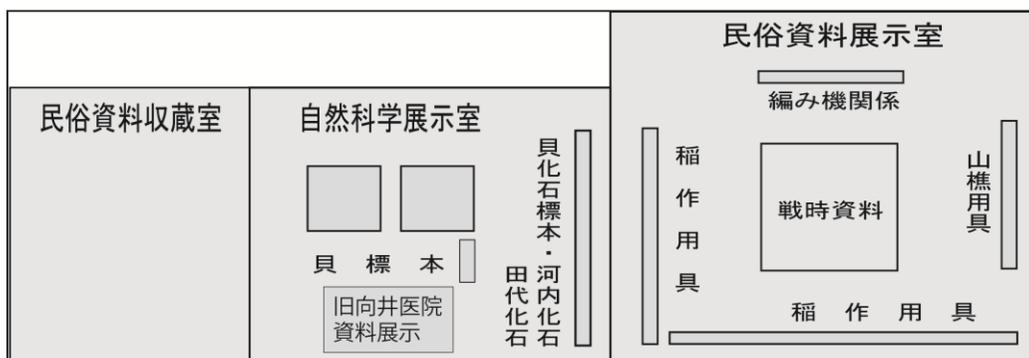


1階廊下壁面（過去の企画展より）
「南種子町のインギー鶏」パネル展示



企画展示室「歌声の響楽譜公開展」より

2階 展示室



2階民俗展示室（稲作用具）



2階民俗展示室
（戦時資料）



2階民俗展示室（山樵用具）



2階自然科学展示室（貝標本）

②展示の概略

■民俗展示室（1階）

住まいに関する生活用具を中心に展示。

壁面や空スペースを利用して、丸木舟や馬車などの大型資料も展示しています。丸木舟（刳舟）については、通常のもの、隣接する廊下に南西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏寄贈）とを比較展示することで、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいというねらいがあります。

■山本直純記念室（1階）

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品を展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「英国祭トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。

■企画展示室（1階）

今年度は、「令和元年度新収蔵資料展」・「日高稔典氏寄贈資料展」を開催しました。写真は、「上皇御作詞・上皇后御作曲『歌声の響』楽譜公開展」の様子で、この楽譜は依頼を受けて山本直純氏が楽譜化したもので、2月のテレビ取材撮影の中で発見されました。

■廊下壁面展示板（1階）

1階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展のパネル展示を行いました。写真は平成25年4月23日、県の文化財に指定された「南種子町のインギー鶏」のパネル展示の様子です。

■民俗展示室（2階）

稲作用具を中心とする農具や山で使用する山樵用具等を展示。今年度は、展示台のマット貼り替えを行いました。

また、展示スペースの問題で、軍服・勲章・遺書などの戦時資料等も、同室に展示しています。

■自然科学展示室（2階）

今から1600万年前の河内貝化石群や500万年前の田代化石をはじめとする貝の化石標本を展示しています。また、併せて、種子島で採集した貝の標本も展示しています。

■廊下壁面展示板（2階）

2階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展から「労働の内容によって使い分けられた馬の鞍」についてのパネル展示を行いました。

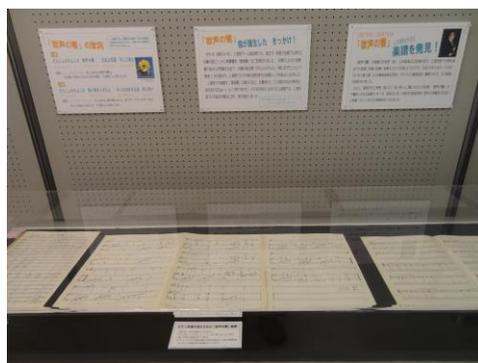
③企画展

■上皇陛下御作詞・上皇后陛下御作曲「歌声の響」楽譜公開展

(令和元年6月1日～6月30日)

「歌声の響」の楽譜は、作曲家の山本直純氏が依頼を受け、上皇陛下御作詞・上皇后陛下御作曲「歌声の響」の旋律に伴奏と前奏・後奏をつけて作成したものです。2月のテレビ番組取材・撮影の中でこの楽譜が発見されたことを受け、「歌声の響」楽譜公開展を開催しました。

今回の企画展では、資料の安全を考慮してガラスケースではなく、特製の亚克力展示ケースに入れて展示を行いました。また、照明等による劣化を防ぐため、来館者がいない時は展示ケースに布を掛けるなどの配慮も行いました。来館者からは、とても貴重な楽譜を見ることができて、本当に良かったという感想を多くいただくことができました。



*入館者数：141名 (小学生：79名・一般：62名)

■令和元年度 新収蔵資料展 (令和元年8月1日～8月31日)

今回の新収蔵資料展は、平成29年度～平成30年度までに郷土館に寄贈していただきました資料の公開です。主な資料は、町立西野小学校から寄贈していただきました農具や生活用具の他、種子島家譜の復刻版や昭和5年に発行された「南種子村乾繭場新築記念写真帳」・昭和28年の南種子高等学校の卒業記念写真帳などです。

*入館者数：122名 (幼児：4名・小学生：66名・中学生：12名・大学生：1名・一般：39名)

■日高稔典氏寄贈資料展（令和元年11月1日～12月27日）

日高稔典氏は青年学校の教師・町議会議員・町内水面漁業振興会長・上中地区長等、多方面でご活躍され、町の発展に大きく貢献されました。企画展では、日高稔典氏所有の貴重な資料や書物類の他、昭和20年に戦死された兄「安典」氏が描いた絵画の展示・戦没画家に関する書物・画集等、多岐にわたって展示を行いました。



生前、日高氏にたいへんお世話になった方やその人柄に魅かれていた方々が訪れ、資料を通して当時間を懐かしく感じておられました。



また、戦没画家である安典氏の絵画展示では、戦争を知らない子供たちが「戦争の悲惨さ」を感じてもらえたように思いました。

***入館者数：202名（幼児：2名・小学生：110名・中学生：1名・大学生：2名・一般：87名）**

④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。現在、2階の「自然科学室」の半室を民俗資料の収蔵室（Ⅱ）として活用しています。

⑤令和元年度 新収蔵資料

提供者	住所	資料名（個数）	備考
佐々木 茂美	下中	蠅獲り器（1）	寄託から寄贈資料へ変更
峯山 祝文	島間	組立暗箱カメラ（蛇腹カメラ）：（1） 郷土将兵慰問写真帳：（1）	

3. 教育普及活動

■体験学習

①郷土館及び埋蔵文化財センター体験学習（通年）

今年度は従来の割りばし鉄砲・ブンブンごま・紙粘土勾玉・貝殻アクセサリー・アンギンコースター・土器づくりなどに加え、竹笛・ソテツの手裏剣・ドングリゴマづくりを新しく追加して体験学習を行いました。



竹笛づくり



ソテツの手裏剣づくり



ブンブンごまづくり



アンギン編みコースターづくり



紙粘土勾玉づくり



割りばし鉄砲づくり

②南種子町埋蔵文化財センター体験学習室利用状況

月	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月合計	1	35				3	39	39		
5月合計		52	2				54	54		
6月合計	2	40	1			7	50	50		
7月合計	1	43	1			6	51	51		
8月合計	1	35				4	40	36	4	
9月合計		25				3	28	28		
10月合計		27				6	33	33		
11月合計		1				1	2	2		
12月合計		32				2	34	24		10
1月合計		1				1	2	2		
2月合計		15				1	16	16		
3月合計		8					8	8		
計	5	315	4	0	0	34	358	344	4	10

③体験学習内容

*割りばし鉄砲づくり

割りばし鉄砲は、割りばしと輪ゴムを使って鉄砲をつくり、輪ゴムを飛ばす昔の子供の遊び道具です。本町、南種子町は1543年（天文12年）、明国船（ポルトガル船籍）が漂着し、乗っていたポルトガル人から鉄砲が伝わったという歴史的背景もあることから、その史実も伝えながら割りばし鉄砲づくりを行っています。

銃砲の長さを長くすることで、よりスピードや威力がつきますが、コントロールは少し難しくなります。また、輪ゴムを掛けた時にすぐに飛んでしまう場合は、引き金に暴発？防止の輪ゴムを取り付けます。銃口には、カッターで溝を掘って輪ゴムを掛ける方法と十字型になるように輪ゴムで取り付け、輪ゴムを掛ける方法がありますが、体験学習では、怪我をしないように、後者の十字型にしています。さらに、鉄砲に自分の好きな色を塗って、楽しむ子供たちもいます。

製作後は厚紙でつくった恐竜の的をねらって倒し、的につけられた点数を競うゲームも行っています。想いは、古代の恐竜ハンターになったつもりで楽しみます。

*** ブンブンゴマづくり**

ブンブンゴマは、ダンボールや発泡スチロールに紙を貼った紙パネル板などを丸く切って、中央に2か所穴をあけてヒモを通し、ヒモを引っ張ったり、緩めたりすることでヒモがよじれたり、元に戻ろうとする原理で丸いダンボール板（紙パネル板）を回す昔の遊び道具です。このよじれたヒモが元に戻ろうとする原理は、舞hiri式の火おこし道具の芯棒（摩擦棒）を回す原理と同様であることから、「火おこしの体験学習」を行う際にも紹介しています。

また、ダンボール板に様々な模様や色を塗ることで、コマが回った時にできる微妙な色合いを楽しむこともできます。コマに塗られている色には、健康への願いが込められており、昔は新築や入学のお祝い・5月の節句・結婚式の引き出物などに贈られていたといえます。

* 赤色は心臓の健康・黒色は腎臓の健康・黄色は肝臓の健康・緑色は脾臓・白色は肺の健康を意味するといわれています。

*** 紙粘土でつくる勾玉づくり**

広田遺跡ミュージアムでは滑石という軟らかい石を紙ヤスリで削って勾玉づくりを行いますが、埋蔵文化財センターの体験学習では、まず紙粘土で勾玉の形をつくり、それを乾燥させてから紙ヤスリで表面を磨いていく方法で行っています。勾玉の形づくりは、紙パネルで作った型抜きに紙粘土をつめて抜き取り、整形しますが、型抜きを使用せず、自分で作る人もいます。その後、2～3日乾燥させて着色し、（着色したくない人には、防水のため、透明マニキュアやニスなどで表面をコーティングすることを勧めています）ヒモを取り付けて首飾りにします。

*** 土器作り**

縄文時代になり土器がつくられるようになると、縄文人の食生活は煮込み料理や汁物なども作られるようになり、とてもバラエティー豊かになりました。そうした縄文人たちの土器づくりに対する「アツイ想い」を感じながら、体験学習を行います。

土器づくりでは、まず、器の底をつくり、その上に粘土を紐状に伸ばしたものを積み重ねて行く「紐作り製法」で作ります。また、ヘラで模様をつけたり、星やハートの形に作ったものを土器の胴部にくっ付けたりして、独自の土器を製作する人もいます。

今年度は土器に色を塗りたいという要望もあり、希望者にはアクリル絵の具を使って着色も行いました。

*貝殻アートアクセサリーづくり

水を入れた紙コップに数種類の色のマニキュアを1滴ずつ垂らすと波紋ができ、それをつま楊枝で花のような模様を作り、その中にタカラガイなどの貝殻を入れて、マーブル模様をつけるものです。マニキュアの色や模様の作り方、貝殻の大きさや貝殻を入れる場所によって、それぞれ違った模様になり、自分だけのオリジナルな貝殻アクセサリーができるのが最大の魅力で、人気があります。

貝殻の模様が乾くまでの時間を利用して、貝に取り付けるストラップのヒモを編みます。

*アンギン（縄文織機）によるコースターづくり

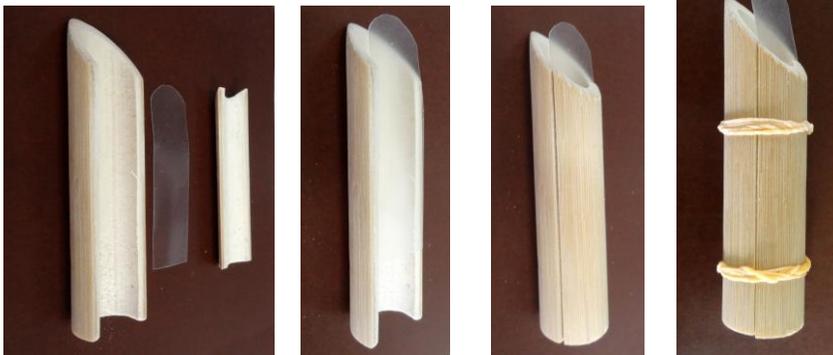
アンギンは縄文時代の織機で、衣類や物を入れる袋などを麻ひもなどを使って編んでいたようです。体験学習では、実用を兼ねて、お茶やコーヒーカップに下に敷く「コースター」づくりに挑戦しました。子供たちに体験させる前に実際やってみると、1人でヒモを押さえながら編んでいくのは難しく、子供たちには2人1組で体験学習を行いました。

また、マジックで好みの色を着けることによって、きれいなオリジナルのコースターを作ることができました。

*竹笛づくり

今年度、新しく行った体験学習です。竹笛は、広田遺跡ミュージアムのゴールデンウィークのイベントで教えてもらった昔の遊び道具ですが、長く使用できるように少し改良してみました。具体的には、まず竹をダチクではなくもっと固い竹を使用し、変形や割れ防止のため、薄く竹の皮を剥いてみました。(民具の竹製の水筒(シーツツ)は割れにくくするために皮を剥いてであるという先人の知恵を見習ってみました。)

また、竹筒の中にセットする振動板は竹の葉からクリアファイルに変えてみました。さらに、製作の安全面も考慮して振動板のセットは、写真のように竹を割って中にはさみ、ずれないように2ヶ所、輪ゴムで留めるようにしました。



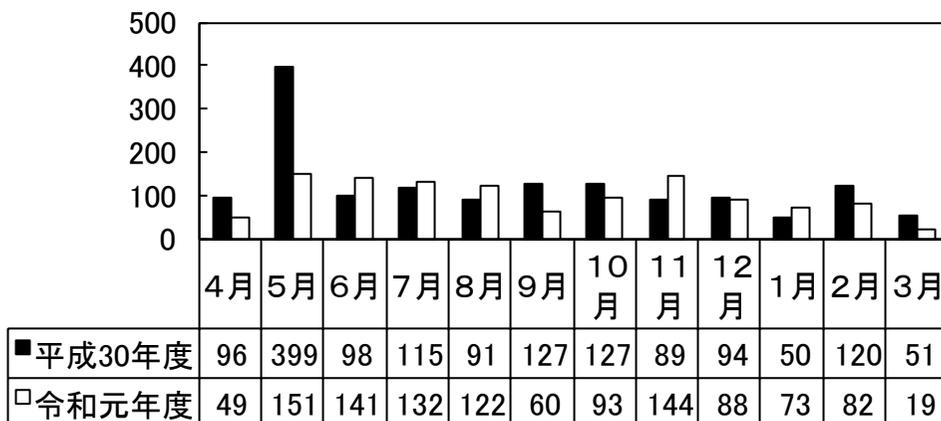
4. 入館者数

令和元年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

分類	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月	2	12				35	49	36	2	11
5月	1	62			1	87	151	92	2	57
6月		79				62	141	124		17
7月	1	77		1		53	132	118		14
8月	4	66	12		1	39	122	90	5	27
9月	1	28				31	60	47	1	12
10月		40				53	93	72	6	15
11月	1	55	1		2	55	114	90	3	21
12月	1	55				32	88	68		20
1月	1	31			1	40	73	50	2	21
2月	1	24		4		53	82	63	3	16
3月		6				13	19	14	3	2
計	13	535	13	5	5	553	1124	864	27	233

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

- 館長 松山 砂夫（社会教育課長）
- 文化係 才川 いずみ（文化係長）
- 学芸員 石堂 和博
- 学芸員 小脇 有希乃
- 管理員 豊島 巧
- 管理員(補) 平島 強
- 管理委員会委員長 長田 忠（文化財保護審議会委員長）
- 管理委員会副委員長 柳田 和則（文化財保護審議会副委員長）
- 管理委員会委員 岩澤 昭文（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 日高 友典（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 稗島 悦朗（文化財保護審議会委員）